サビエル生誕五百年

巡礼の道 523

藤屋 侃士
（下松市幸ケ丘）

手術という十字架
～予期せぬ出来事（3）～

ネームバンドにはバーコードが

緊急入院して九日目、合併症のリスクがあるにやっと手術、この間、と言われると不安になる。二十四時間点滴なので空腹で耐えられないというほどではない。

急性虫垂炎、俗にいう盲腸である。今までにペースメーカーを入れるために二度手術を受けたが、その時は部分麻酔。内科の主治医が施術し「日曜大工のようなもの」と言われる。

今回は全身麻酔で、外科医による執刀だ。「たかが盲腸だ」と思いたかったが、手術前の家族を含めての説明で、心肥大で高血圧、糖尿病もあるので、心筋梗塞、肺炎など十のまれると、まだ不安になる。

人間とは、いや、私は弱い者と実感せざるを得ない。現金なもので、退院日が決まると何の不安もなくなる。結局、入院期間は二十二日間。前回、入院生活はクルーズに似ていると書いたが、アラスカにしろ、バリにしろ、こんなに長いことはなき」、十字架上で殺される前に「渇く」と言われたイエス・キリストを思い起こす。

死刑を宣告された地からゴルゴダの丘まで、自分がはりつけにされる十字架を担がされての道行（ドロローサ）。

今春、妻と長女と三人でパレスチナを訪れた。足の不自由な妻をホテルに残し、長女とドロローサを歩く。手術を待ちながらドロローサを歩いた時のことを思い出すと、もっと真剣にイエスのことをまらない。とはいえ、死刑を別とすれば、命のリスクを伴う手術での入院生活の方が重いかもしれない。

血液をサラサラにする薬を常服していたため、絶食で九日間手術を待つまでの期間、特に手術前夜から一滴の水も飲めないための「渇い。経験はないが、入院生活は刑務所暮らしに似ているかもしれないと思う。

二年前に亡くなった高倉健は刑務所に縁のある役を演じることが多かった。先日の毎日新聞の余録に彼が刑務所を慰問し「一日も早く復帰して貴方の大切な人のもとに帰って下さい」と語り、本人も受刑者も涙ぐんだとある。

同じく日常生活から隔離された身、涙が止

病院を一歩出ると日常生活の場だ

四つの穴を開け、そこから鉗子（かんし＝はさみのような形をした刃のない手術用具）を入れて手術は成功した。が、摘出した盲腸の付け根部分が傷んでおり、入院予定期間の二週間より延びると言

た不安になる。

人間とは、いや、私は弱い者と実感せざるを得ない。現金なもので、退院日が決まると何の不安もなくなる。結局、入院期間は二十二日間。前回、入院生活はクルーズに似ていると書いたが、アラスカにしろ、バリにしろ、こんなに長いことはなき」、十字架上で殺される前に「渇く」と言われたイエス・キリストを思い起こす。

死刑を宣告された地からゴルゴダの丘まで、自分がはりつけにされる十字架を担がされての道行（ドロローサ）。

今春、妻と長女と三人でパレスチナを訪れた。足の不自由な妻をホテルに残し、長女とドロローサを歩く。手術を待ちながらドロローサを歩いた時のことを思い出すと、もっと真剣にイエスのことを

まらない。とはいえ、死刑を別とすれば、命のリスクを伴う手術での入院生活の方が重いかもしれない。

血液をサラサラにする薬を常服していたため、絶食で九日間手術を待つまでの期間、特に手術前夜から一滴の水も飲めないための「渇

考えながら歩くべきだったと反省する。

どんなに苦しく、痛みがあろうが全身麻酔や痛み止め薬を飲まされた訳でもない。十字架に太い釘で手の甲を打ちつけられる。想像するだけでも脂汗が出る。

そのありのままの苦しみを受け入れただけでなく、そのようなことをした人を許し、イエスは十字架上で死んだ。神は三日後にイエスを復活させ、永遠の命を与えられたのである。

誰にも予期せぬ出来事はある。高齢になればなおさらである。十字架で殺されたイエスの苦しみと、万全の医療での手術を比較するほど傲慢ではないが、これからもっと謙虚に生きねばと思う。

間もなく退院だ!!